

昭和 63 年度第 1 回役員会

昭和 63 年 5 月 11 日 (水), 於東京水産大学. 出席者: 上野, 阿部, 新井, 石山, 神山, 佐藤, 佐野, 谷内, 富永, 馬場, 藤田, 本間, 松浦, 丸山, 黒沼, 中村.

議事: 1. 前回記録の確認. 2. 報告事項. (庶務) 会長・役員交代にともない日本学術会議に変更を届出た. 会費長期滞納者 22 名について評議員会の決定通り退会手続きをとることにした. (編集) 35 巻 1 号は 5 月下旬発行の予定. 残りの手持ち原稿は 82 編. (会計) 昭和 63 年度年会の収支決算報告. 3. 年会の反省. 本年度は年会会期が水産学会と一部重複してしまったので, 今後はこのようなことのないよう配慮する. 4. 選挙結果の確認. 会長 (昭和 65・66 年度), 編集委員長 (昭和 63-66 年度) の投票用紙を役員会の立会のもとで開票し, 以下の結果を確認した. 会長: 落合 明 (34 票), 岩井 保 (22), 白票 (1). 編集委員長: 新井良一 (9), 次点 多紀保彦 (8). この結果, 昭和 65・66 年度の会長は落合 明氏, 昭和 63-66 年度編集委員長は新井良一氏に決まった. 5. 学会賞. 評議員会の付託を受けて学会賞検討委員会を設置することにした. ただしこの委員会では学会賞を設けることの可否をも含めて検討し, 委員の人は会長に一任して次回役員会までに決めることにした. 6. 今後の活動予定. 10 月 7 日に東海大学海洋学部で実施される本年度シンポジウム (テーマ: 硬骨魚類の雌雄性) の準備は計画通りに進められていることが報告された. また来年度の年会は国立科学博物館分館 (新宿) で開くことに決まった. 7. その他.

日本学術会議だより No. 9 (昭和 63 年 5 月)

日本学術会議は昭和 63 年 4 月 20 日から 22 日まで第 104 回総会を開催した. これは第 13 期最後の総会で, 会長より提案の「国際間の科学技術協力と研究の自由について (声明)―日米科学技術協力協定の改定に当たって―」が決議されたほか, 「太陽地球系エネルギー国際共同研究計画 (STEP) の実施について (勧告)」, 「国立地図学博物館 (仮称) の設立について (勧告)」, 「大学等における学術諸分野の研究情報活動の推進について (要望)」, 「我が国の国際学術交流の在り方についての日本学術会議の見解」が, いずれも賛成多数で採択された.

会員異動 (1987.12.1-1988.6.30)

Table with multiple rows and columns of names, many of which are redacted with black boxes. The table lists membership changes for the period 1987.12.1-1988.6.30.